

## 外国からのお客様

アメリカワシントン DC の元副市長 ペアトリス・オテロ氏が、3月1日、本園園内研修会の日に、本園の指導講師である秋田喜代美先生のご紹介により、独立行政法人 国際交流基金日米センターを介して、本園を視察されました。

天候にも恵まれ、11時から13時30分の間、園内を見て回り、親しく子ども達に話しかけて下さり和やかな一時を子ども達と過ごされました。



その後、秋田喜代美先生【東京大学大学院教授】と無藤隆先生【白梅学園大学教授】・野口隆子先生【十文字学園女子大学】、増田時枝【本園幼児教育センター長】そして園長及び国際交流日米センターの小野元氏と逐次通訳を囲み、昼食を取りながら、日本の幼児教育の実情とアメリカの実情について意見が交わされ、その中で、いくつかの質問がなされました。特に

関心を持たれたのは、日本の幼児教育制度のあり方について質問され、この制度に大きく関わっている無藤先生と秋田先生から、平成27年にスタートした、日本の新しい幼児教育のシステム幼保連携型認定子ども園の経緯などについて丁寧に説明され、また、本園の預かり保育や、四季を通じてのカリキュラムの編成、幼児の評価などについても、アメリカの幼児教育の実情を交えながら意見交換が行われました。

特に、外遊びを視察された際に、子ども達が主体的に目的を持って遊びを進めている様【穴堀遊びや、泥んこ遊び】をしている子に関心を持たれ、その遊びの中で、外部教師が運動遊びを混在している様子に、子ども達は、自分の遊びを中心として活動している事に感心されていました。また、室内では、3歳児の昼食場面を視察され、子ども達が生活場面で、教師の誘導により食事の準備をしている様子に、こうした、メリハリがとても大切であると言われておりました。子ども達の主体的遊びと、教師の必要に応じた誘導によって、バランスの取れた保育は、アメリカでの保育に是非取れ入れて見たいとおっしゃっておりました。短い時間の中で、最長く見てみたいとおっしゃっておられ、園長が、最後に、本園は4月の入園の頃には、桜が咲き、



アンズやこぶしなど草花がたくさん花開き、華やかになりますとお伝えすると「また4月に来なくては」と笑顔で語られておりました。



図書館を視察され



て・・・

